

第 237 回 日本知能情報ファジィ学会 理事会議事録 (第 15 期, 第 15 回)

日時 : 2019 年 5 月 11 日 (土) 13:00~17:00

場所 : 関西大学・高槻ミューズキャンパス・西館 3 階 M301

<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/access.html#muse>

<http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/mapmuse.html>

出席者 (敬称略) : 林 (会長), 乾口 (副会長), 藤吉 (副会長), 本多 (事業・研究推進), 櫻井 (会誌), 堀尾 (財務・会計), 井田 (規程・選奨), 能島 (広報), 前田 (特任・資料アーカイブズ), 金久保 (財務・会計監事), 堀口 (事業監事), 星野 (大会デザイン; オブザーバー; Skype), 広兼 (総務)

欠席者 (敬称略) : 中島 (特任・電子化データベース), 工藤 (出版・他学会連携)

次期理事予定者の出席者 (敬称略) : 山田 (会長予定), 高木 (副会長予定), 小澤 (副会長予定), 大塚 (総務予定), 藤本 (会誌予定; Skype) 小林 (財務・会計予定; Skype), 橋本 (電子化・DB 予定; Skype)

【審 議】

1. 前回議事録の確認 (資料 237-0 : 広兼)

- ・資料 237-0 に基づき, 前回議事録の内容について説明があった.
- ・その他, 議事録の内容に疑義等ある場合は, 5 月 18 日 (土) までに総務担当理事へ連絡することとした. その後, 意見に基づき修正したうえで, HP へ公開することとした.

2. FSS 改革について (資料 237-1-1, 2 : 林)

- ・資料 237-1-1 に基づき, FSS の改革について説明があった.
- ・毎年 200 万円程度の支出超過となっており, その原因としては会員数の減少と FSS による収入の減少が考えられる.
- ・FSS の内容改革については, 「あいまいさを含む知能の解明を科学的に挑戦する」を前面に出して, 様々な企画を企画していくことが説明された.
- ・FSS 改革についての案やアンケートの各項目について説明された.
- ・総会では, アンケートの集計結果と方向性について説明することを確認した.
- ・FSS2019 でセッション等を企画して, 引き続き FSS の改革についての議論を行うことを確認した.

3. FAN2019 への北信越支部共催について (資料 237-2-1, 2, 3 : 本多, ML 審議 : 3/18 承認)

- ・資料 237-2-1 に基づき, FAN2019 への北信越支部共催について説明があった.
- ・北信越支部を共催に追加することを確認して, ML で審議了承されたことを確認した.
- ・残金については, 主催者側に収めることを確認した.
- ・学会からの事前の予算準備は必要ないことを確認した.

4. 奨励賞の賞金について（資料なし：井田，ML 審議：3/23 承認）

- ・メール審議のとおり，奨励賞の賞金について説明があった。
- ・奨励賞の賞金金額は社会人が 15,000 円で学生が 10,000 円となっている。
- ・今回の受賞者は受賞決定段階では学生であるが，受賞式の時点では社会人で本学会の正会員となっており，今回のケースでは社会人として 15,000 円とすることが提案された。
→今後とも，賞金金額は授賞式の時点での会員種別によって決定することが了承された。

5. 第 30 回総会について（資料 237-3：広兼）

- ・資料 237-3 に基づき，第 30 回総会について説明があった。
- ・総会の案内は資料 237-3 のとおり，学会誌に掲載したこと報告された。
- ・当日の進行について，議題「5. 会長，副会長，理事，監事の選出」が了承された後は，第 16 期理事会で議事を進めていくことを確認した。
- ・司会は総務担当理事が実施し，事業報告は事業担当理事，事業報告に対する監査報告は事業監事，決算報告は財務・会計担当理事，決算報告に対する監査報告は財務・会計監事が実施することを確認した。
- ・会計報告・監査報告については 5 月 26 日に確認できるよう準備することを確認した。

6. WCCI2022 の提案の可能性について（資料 237-4：林）

- ・資料 237-4 に基づき，WCCI2022 の提案内容について説明があった。
- ・関連する学会からの依頼でもあり，WCCI ということもあり，セッションを企画して開催に協力する方向で検討していくこととした。
- ・2022 年開催ということなので，次期理事会で引き続き検討していくこととした。

7. IFSA Annual Report について（資料 237-6：乾口）

- ・資料 237-6 に基づき，IFSA Annual Report について説明があった。
- ・IFSA のメンバーは各国の研究機関のメンバーで構成され，日本は SOFT となっていることが報告された。
- ・SOFT の学会員数，出版物，総会，財務，その他の活動などについての内容を説明した。

8. SDGs への取り組みについて（資料 237-7：広兼）

- ・資料 237-7 に基づき，横幹連合からの SDGs への取り組みに関するアンケートについて説明があった。
- ・学会としての見解でなく，個人的見解でも良いことを確認した。
- ・アンケートのゴール・ターゲットについて，学会の活動と関連する項目があるかどうかを理事会メンバーに検討していただくこととした。
- ・理事会メンバーにアンケートについての検討依頼をメールで行い，意見を集約して，次回の理事会で検討することとした。

9. SOFT アンケートの中間報告について（資料 237-8：能島）

- ・資料 237-8 に基づき、SOFT アンケートの集計結果について報告があった。
- ・47 名から回答があったことが報告された。
→回答者が少ないため、再度、SOFT-ML にアンケートの回答依頼を送り、締め切りを 5 月 21 日に延長することが確認された。
- ・FSS の内容改革については肯定的な意見が多いと思われる。
- ・他学会とのセッションの共有化は、感性工学会、人工知能学会、情報処理学会などとすれば良いという意見が多かった。
- ・名称については、「ファジィ」を「ソフト」や「あいまい」などにしたほうが参加・発表しやすくなる意見が多かった。
- ・ファジィシステムシンポジウムという名称を変更した方が良いかどうかに対する回答は、「変更した方が良い」「変更しないほうが良い」
- ・回答数を増やすのであれば、FSS の参加申込者に依頼すればよいのでは。
- ・FSS でアンケートの集計結果を報告する場を作って、感触を得る必要がある。
→報告はポスターセッションの形態で、その場でアンケートをとれば感触を得やすいのではないかと。
→FSS2019 の最終日の午前中にセッションを企画する方向で検討することとした。

10. 資料アーカイブズ関連作業の現状報告と今後について（資料 237-9-1, 2, 3：前田）

- ・資料 237-9-1, 資料 237-9-2, 資料 237-9-3 に基づき、資料アーカイブズの意義および現状の作業状況について説明があった。
- ・基本的には 3 大雑誌（学会誌、FSS、SCIS）については、J-Stage に一本化する方向で進めている。
- ・FSS の第 3 回と第 8 回の XML 作業として 16 時間かかったことが報告された。
→この作業にかかった費用については学生に支払うことで了承した。
→同じような作業を進めていくとすると、残り 17 巻 12,450 ページについては、単純計算で 176 時間かかることが推測される。
→FSS については 1985 年から 2004 までの 20 回分が残っている。経費は 20 万円程度かかることが予想されるが、基本的には進めていく方向で合意された。
- ・3 大雑誌は J-Stage で、それ以外はファイルを Google Drive に置いておき、学会サーバーからリンクする方向で進めていくこととした。
→財政的には厳しいが、XML ファイルを生成するプログラムを使用する等の時間短縮を検討して、少しずつでも作業を進めていく方向で検討していくこととした。
- ・SCIS&ISIS は第 1 回と第 2 回が残っているのみである。
- ・ノンエンジニアリング・ファジィ研究会ワークショップ講演論文集とソフトサイエンス・ワークショップ講演論文集は、直近 3 年分は公開しないこととし、それまでの号についてはアーカイブ化することがソフトサイエンス研究部会にて承認されたことが報告された。

11. 2018 年度事業報告について（資料 237-10：本多）

- ・資料 237-10 に基づき、2018 年事業報告について説明があった。
- ・資料中の緑色の箇所は各支部・研究部会の自己評価であり、総会では緑色の箇所を削除した形で公開する。
- ・事業内容について、(12)(13)(14)について追記したことが報告された。
 - Zadeh 先生の追悼行事については、15 期でかなり時間を割いたイベントであり、事業内容に明記しておきたい。
 - 奨励賞関連の規程は変更していないので、追加しないで良いことを確認した。
 - FAN2019 への共催を追加することとした。
 - シンポジウムの表記方法を統一することとした。
 - 学会誌の活性化は、具体的な内容を確認して、具体的に表記することとした。
 - (14)は「FSS2018 での（学生×企業）のコラボの実施」と「FSS2019 での（研究者×企業）のコラボの実施」に分けて記載することとした。
 - 「奨励賞の選考時期の改定」を追記することとした。
 - (13)の「FSS 改革」は「ファジィシステムシンポジウムの改革・活性化」として、表現を統一することとした。
- ・年号は西暦で統一することとした。
- ・各支部からの事業報告について、自己評価を確認したうえで報告を了承することとした。
- ・各研究部会からの事業報告について、自己評価を確認したうえで報告を了承することとした。

12. 2019 年度事業計画について（資料 237-11：本多）

- ・資料 237-11 に基づき、2019 年事業計画について説明があった。
- ・資料中の緑色の箇所は各支部・研究部会の期待される効果であり、総会では緑色の箇所を削除した形で公開する。
- ・SOFT-CR 委員会については、現在と次期の担当理事に確認することとした。
- ・資料アーカイブズ委員会、会員データベース委員会は継続する方向で検討することとした。
- ・事業委員会の事業内容に「FSS2019 における（学生×企業）コラボ企画と（研究者×企業）コラボ企画の開催」を追加することとした。
- ・各支部からの事業計画について、期待される効果を確認したうえで計画を了承することとした。
 - 中四国支部と九州支部については、期待される効果についてももう少し詳細な記述がほしいとの意見があり、理事会の場で期待される効果を再確認した。
- ・各研究部会からの事業計画については、期待される効果を確認したうえで計画を了承することとした。
- ・組織図を事業計画に基づき修正することを確認した。

13. FSS2016 と FSS2017 の J-STAGE アップ作業について（資料 237-12：星野）

- ・資料 237-12 に基づき、FSS2016 と FSS2017 の J-STAGE アップ作業について説明があった。
- ・XML ファイルの生成に時間がかかることが報告された。

→今回はプログラムで生成したが、今後もチェックを継続していき、運用方法等を検討していく必要がある。

- ・ J-Stage にアップする際にチェックでうまくいかない場合、全体をチェックする必要があり、これにノウハウと時間がかかることが報告された。
- ・ 今後は資料アーカイブズ担当理事と相談しながら作業を進めていくことを確認した。
- ・ XML ファイルの作成にかかる時間は、システムを利用すると、人手での作業時間の 3 分の 2 程度の時間で作成できるとの説明があった。

14. その他

- ・ 特になし

【報 告】

1. IFSA 2019 Award について (資料 237-5 : 林)

- ・ 資料 237-5 に基づき、IFSA 2019 Award について説明があった。
- ・ IFSA 2019 Award for Outstanding Applications of Fuzzy Theory に推薦していた日立造船の藤吉様への授与が決定したことが報告された。

2. その他

- ・ 第 238 回理事会を、5 月 26 日 (日) 13:00 から、高槻ミュージックキャンパスにて開催することとした。

以上